

# 稲作情報



平成22年6月  
JAグリーン近江大中の湖支店

## めざせプリップリ米



## 整粒80%以上

### 生育経過

4月の育苗期間前半は、天候が良くない日が続き低温に経過したため、生育が心配されましたが、葉数、乾物重は平年並に生育しました。

5月中旬～下旬は、気温の低い日が多く、強風の影響もあり、活着は悪く植え傷みしているほ場も見られます。茎数が平年の7割強と初期生育はやや遅れました。

6月に入り天候も良く、連休の移植では茎数は確保できています。

### 水稻の管理

#### ※ 余剰苗（置き苗）は早急に処分しましょう。

補植用に余剰苗（置き苗）をほ場の端に置かれているのが目につきます。

余剰苗は葉もちの主要な伝染源になります。余剰苗からの伝染を減らすため、補植が終わったら直ちに土に埋めるなど処分しましょう。

#### 【分けつ期】

深水で茎数の確保ができないところは、浅水にして生育を促進させます。

（分けつの確保）

未熟有機物の分解等により、還元障害が見られる場合には、自然減水により軽く干します。



【中干し】強制落水はやめましょう。

#### 中干しは遅れずに実施（過繁茂を防ぐ）

#### 中干し期間の目安は10日間程度

粒ぞろいの良い、よく充実した米をつくるには、太い丈夫な茎を育てることが基本です。中干しを早めに行うことにより、弱小な茎の発生防止と太い茎を丈夫に育てる効果があります。また、収穫作業をしやすくするなど、稲の一生でもっとも大切な作業です。

中干し前に溝切りを行うと中干し後の水管理がしやすくなります。

中干しの時期は稲の生育や土壌条件、気象条件によって異なります。

#### 一株当たりの茎数・・・中干しの目安

- ・ 植付本数50株の場合：平均20～21本確認できたら
- ・ 植付本数60株の場合：平均17～18本確認できたら



# 米の品質向上に向けて すっきりとした稲づくり

